

横浜市民広間演奏会のあゆみ 第1幕 カルメンお美

横浜市民広間演奏会は1967年に当時の横浜市長飛鳥田一雄氏の要請により、横浜市教育委員で著名な声楽家であった佐藤美子先生を中心に始まりました。当時の名称は「市民広間演奏会」。横浜市庁舎にて「生の良質な音楽を横浜の市民に届けたい。」と有志を募りコンサートが開催されるようになりました。横浜市民広間演奏会の立役者、佐藤美子先生とはどんな方だったのでしょうか。

1903年神戸で日本人の父、友太郎（税関の監査官）とフランス人の母ルイズの間に生まれる。父の横浜税関勤務に伴い野毛の官舎に住まうようになり、紅蘭女学院（現・横浜雙葉学園）付属小学校に転入。カルメンお美と呼ばれ、彼女がカルメン歌手を志すきっかけとなったくゲーテ座でのカルメンとの出会い※>はこの頃(推定当時10歳)。その後東京音楽学校(現・東京藝術大学音楽学部)に入学。1926年に卒業。「横浜の生んだ音楽界の新人」として新聞で紹介される。1928年より渡欧。パリにて学び、ヨーロッパ各地にて様々なコンサートに出演。1932年に帰国し、演奏会はもとより映画にも出演するなど多方面で活躍。「市民広間演奏会」の設立時代の活躍は以下の通りです。

- 1964年11月「創作オペラ協会」の設立 横浜市教育委員を委嘱される。
- 1965年7月 神奈川県立音楽堂で「巴里祭の夕」を開催、以降毎年行う。
- 1966年 パリ、ローマで日本の民謡と歌曲を唄う。*横浜市歌の改訂
- 1967年 横浜市庁舎広間で市民のための生の音楽会を開催。「市民広間演奏会」と名付け以降定期的に行う。
- 1972年紫綬褒章を授与され、神奈川文化賞も受賞。

*1909年開港50周年を記念して作られた横浜市歌を「もっと一般市民にも歌えるように、やさしく直してほしい」と教育委員を2期務めた佐藤美子先生が市に提言をしました。その後横浜市歌は現在のかたちとなり、横浜市は市歌の普及に力を入れ、市立の小学校などでも歌われるようになり、多くの市民に馴染みのある曲になりました。

「市民広間演奏会」発足当時先生は64歳。カルメン歌いから次第に「日本の音楽文化に尽くしたい」と考えるようになりました。そして日本の歌曲、民謡、創作オペラ（日本の伝統に根ざした、題材や文芸作品を作曲家に委嘱。）を上演するなど精力的に活動しました。フランスに滞在中、マドレン・グレーという歌手に出会った事が、彼女の活動に様々な影響を与えたようです。

～グレーの声はキラキラ輝いていなかったが、自然で味わい深く、不思議な魅力をもっていた。グレーはまたラヴェルの作品をよく唄った。グレーに惹きつけられた自分は、独唱会のたびに聴きに行った。そしてパリやイタリアの民謡を好んで唄う事も知った。そんなときのグレーの歌には、魂のささやきや、叫びや願いがこめられていた。ほんとうの歌というものはいかなるものでなくてはならないのでは、とそのときに感じた思いが、ずっと滞在して、自分と日本民謡を結びつけた。～

このような思いを胸に活動していた佐藤美子先生。そして生まれ育った横浜で「生の良質の音楽を横浜の市民に届ける」と始まった「市民広間演奏会」。

く～今面白い庁舎音楽会～春と秋に15回ずつ毎週火曜日、金曜日に正面玄関から2階に通じる階段の踊り場を舞台に一階フロアを客席に見立てて開いている。>と、当時の様子が1988年1月22日東京新聞に掲載されました。始まった当初は市役所の階段踊り場にピアノが置かれそこで演奏していました。

参考文献 カルメンお美 矢野晶子著 有隣堂／横浜市歌 横浜交響楽団編著

横浜文化情報誌 財団法人 横浜市文化振興財団 1993年10月号 No.20

※ゲーテ座は明治18年春、居留地内に建てられた本格的劇場で観客は外国人が主体であり日本人は少なかった。1923年に関東大震災により倒壊。



工藤美恵先生提供 階段踊り場での「市民広間演奏会」